

ダム反対鹿沼市民協議会長  
廣 田 義 一 様

鹿沼市長 佐 藤 信  
(公 印 省 略)

水問題に関する質問状について (回答)

梅雨の候 ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。  
さて、平成21年5月22日付けで提出いただきました質問状につきまして、  
別紙のとおりでありますのでご理解をお願いいたします。

---

## 「水問題に関する質問状」の回答について

1. 使う予定のない水利権をダムの建設負担金を支払って取得することは、もったいないと考えませんか。

水道事業は、安心・安全な水を安定的に市民に提供することが責務と認識しており、現在はあらゆる方策を考えながら地下水で賄っています。

ただし、その地下水が足りなくなった場合は、市民生活に多大な影響を与えることから、他に水源を求めざるを得ず、表流水も選択肢の一つと考えております。

2. 鹿沼市の2007年度の水需要（1日最大給水量）は、 $29,520\text{m}^3/\text{日}$ でした。人口が減少し、節水機器が普及する中、今後鹿沼市の水需要（1日最大給水量）が $37,800\text{m}^3/\text{日}$ に極めて近くなるのがどれくらいの確率で実現すると思いますか。

計画1日最大給水量は、水道施設設計指針に基づき、鹿沼市第5次総合計画の計画人口と、過去10年間の給水量実績から推計したものであります。

3.  $29,520\text{m}^3/\text{日}$ と $37,800\text{m}^3/\text{日}$ の差 $8,280\text{m}^3/\text{日}$ は、近時の1人当たり給水量を前提とすると、給水人口何人分の水量ですか。

平成19年度が $29,520\text{m}^3/\text{日}$ 、平成20年度が $30,007\text{m}^3/\text{日}$ の実績であり、第5次拡張事業計画の最終年度が $37,800\text{m}^3/\text{日}$ となります。

4. 上水道の給水区域は、今後具体的にどの地域を拡張する計画があるのですか。

今年度要望に基づき拡張を行っている主な区域は、見野・武子・笹原田・上石川・下石川・深津であります。その他今後拡張が計画されている区域は、古賀志町・富岡・佐目町・野沢町・北赤塚町・亀和田町・藤江町などです。

5. 鹿沼市は思川開発事業計画に当初 $0.423\text{m}^3/\text{秒}$ で参画していましたが、2006年に $0.2\text{m}^3/\text{秒}$ に減量しました。その理由を教えてください。

平成13年に県に報告した $0.423\text{m}^3/\text{秒}$ は、当時の鹿沼市の最大値として県に報告したものであり、その後検討した結果、表流水必要量は $0.2\text{m}^3/\text{秒}$ としたものです。

6. 鹿沼市地下水調査で定めた上水道の適正揚水量を超えて取水すると、どのような不都合が生じるのですか。

取水井に目詰まりがおこり、取水能力が落ちることが推測されます。また、特に冬季には地下水位降下が大きくなり、砂の流出や水位の回復が低下します。

7. 鹿沼市上水道では、2000年度以降も毎年度適正揚水量を超えて地下水を揚水していますが、そのことによってどのような弊害が生じたのですか。年度ごとに具体的に示してください。

平成8年3月に第5次拡張事業の認可で、予定していた南押原の取水井が確保できなかったため、既設の取水井でまかなわざるを得ず、適正揚水量を超えて取水しました。そのため、「6」で回答したとおり各取水井の取水能力が低下しました。

8. 水道計画に市民が参加する検討組織として鹿沼市は懇談会を開催するとのことですが、審議会を開催しない理由を教えてください。

国がまとめた「地域水道ビジョン作成の手引き」の中で、「顧客のニーズを把握」「検討会の設置」が記されていることから、懇談会を設置し市民の意見を聴取したり、アンケート調査を実施し、その結果を反映していきたいと考えております。

9. 鹿沼市の水需要予測は50,500m<sup>3</sup>/日（2010年度）から37,800m<sup>3</sup>/日（2017年度）に変わりました。25%も下方修正した理由を説明してください。

主な要因は、第4次、第5次鹿沼市総合計画における計画人口の差と、前回と今回の計画策定時の前10年間の給水量実績の差によります。

10. 市は、水需要予測を大幅に見誤り、50,500m<sup>3</sup>/日（2010年度）に合わせた水源を確保し、施設を整備しようとしていました。水需要予測を大幅に誤ったことについてだれがどのような責任をとったのですか。

計画1日最大給水量は実績をもとに推計し、当時の給水量は右肩上がりに増加しており、設定当時はやむをえない数値と判断されます。

11. 鹿沼市は、2010年度の水需要が50,500m<sup>3</sup>/日になると、広報かぬまで繰り返し広報してきました。その後予測値を37,800m<sup>3</sup>/日へと大幅に修正しました。広報で市民に周知した予測値が間違っていたのですから、広報で修正するのが筋だと考えませんか。

今回の計画変更は、給水人口、1日最大給水量であり、今後、整備区域の拡張など大幅な変更がある場合にはその中で掲載してまいります。

1 2. 水需要予測は、科学的根拠に基づいて行うものですか。

**2・9番で回答したとおりです。**

1 3. 思川開発事業計画に関する鹿沼市の負担金15億8100万円はどのような根拠で算出されたのですか。

**15億8100万円の根拠については、東大芦川ダムを中止したことにより県と合意したものであります。この金額は、東大芦川ダムを建設した場合の市の負担金相当額であります。**

1 4. 市はこれまで国又は県に思川開発事業計画に関する負担金をいくら払ったのですか。

**支払っていません。**

1 5. 思川開発事業計画に関する負担金はどこに対して支払うのですか。

**独立行政法人水資源機構です。**

1 6. 思川開発事業計画に関する負担金は、元利合計でいくら払うことになるのですか。

**負担金は、15億8,100万円です。利息については、支払方法により異なります。**

1 7. 鹿沼市分の水利権を取得する団体は県ですか、鹿沼市ですか。

**鹿沼市が取得することになります。**

1 8. ダム事業に参画することによって、水道料金がどれだけ値上げになるのですか。

**水道料金については、ダムの水を使うか使わないかではなく、給水原価と供給単価によって決まって参ります。**

**当市の水道事業は、全市給水化のために、今後も未普及地への拡張事業や、大幅に増加してくる耐用年数を超えた配水管と水道施設の更新を行っていかなくてはなりません。**

**更にクリプトスポリジウム対策のために浄水場の整備が必要になるなど、収支のバランスによっては値上げも検討していかなければなりません。**

19. 思川開発事業は子孫に恥ずべき負の遺産ではないと胸を張って言えますか。

思川開発事業（南摩ダム）は国の事業であります。ダムの建設目的には、洪水対策としての調整機能及び水道用水や農業用水等の確保があります。ダム事業によって、これらの目的が達成され下流域全体に安心と安全が確保できるとすれば、重要な事業であると理解しています。

20. 思川開発事業が完成することによって、南摩川の流量は増えるのですか。

思川開発事業の目的に、「既得用水の安定と河川環境保全のための流量確保」があります。思川開発事業では、河川の流量が少ない場合に、ダムの貯留水を河川に補給することを計画しています。

完成後、南摩川に、既得用水の取水や河川環境保全に必要な流量を、南摩ダムから放流し、南摩川の河川流況の安定化を図ることとしています。

21. 上水道事業で2000年度以降、減圧給水をしたのですか。したとすればいつですか。しなかったとすれば、なぜしなかったのですか。

以前は冬季の渇水期に減圧給水を行いましたが、平成15年度から各浄水場の能力に応じ配水区域のブロック分けを実施したことにより効率的な水運用ができ、減圧給水するに至りませんでした。しかし、冬季の降水量等の状況によっては今後減圧給水を実施する場合があります。

22. 鹿沼市は大芦川の自流入について水利権を取得しているのですか。

水利権は取得していません。

23. 水道用の地下水源を保全するために鹿沼市は今後どのような努力をするのですか。

森林の持つ水源涵養機能の増進を図るため、森林所有者の森林施業計画の作成を推進するとともに保安林の指定拡大などを推進してまいります。

また、水利用については、家庭や工場等において節水に努めるようPRし、揚水量の適正化に努めてまいります。

24. 思川開発事業の導水事業によって、板荷地区や加蘇地区の地下水や沢水が枯渇する等の影響が出ないようにするには、どのような構造や施工方法があるのか教えてください。

水資源機構では、導水路トンネルの建設に向けて、トンネル・地質の専門家から指導・助言を得ながら、地下水に影響を与えないような構造や施工方法について検討してきました。

この検討会での審議結果を受け、地下水利用状況、地質状況等を考慮し、施工性及び止水性に優れる工法（シールド機械）による掘削や、止水性を高めた覆工構造（セグメント覆工）を採用する計画としています。

25. 黒川と大芦川から南摩ダムに導水されることによって、上水道や簡易水道の水源井戸にどの程度の影響があると考えているのですか。根拠も含めて教えてください。

水資源機構では、黒川・大芦川からの河川水取水に先立ち、取水地点の下流地域への影響を評価するため、地下水の専門家から指導・助言を得ながら、既存資料の収集整理を行うとともに、河川水位及び地下水位等の継続的な調査を行っています。その収集資料及び調査結果等を基に評価・解析を行い、「河川水取水による下流地域への地下水利用への支障はない」と判断しています。

なお、下流地域への地下水利用とは、上水道や簡易水道等の水源井戸です。

26. 2000年度以降市民に節水を呼びかけましたか。呼びかけたとすればいつ、どのようにして呼びかけましたか。呼びかけていないとすれば、理由を教えてください。

毎年、水道週間（6月1日～7日）には、街頭にて呼びかけております。

ホームページでも呼びかけております。

27. 今後市民に対して節水の呼びかけをするのですか。具体的な予定があれば教えてください。

26番で回答したとおりです。